

寫真週報

情報局編輯
七月廿二日 第二卅七號

大東亞
建設特輯



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 12

ばならない。例へば、石油は自動車と飛行機と、どちらに先に與へなければならぬか、ご存知の通り。高度國防國家の完成までは、いきなり物を手で握り、口に入れようなどと考へてはならない



繪 馨 好 秋

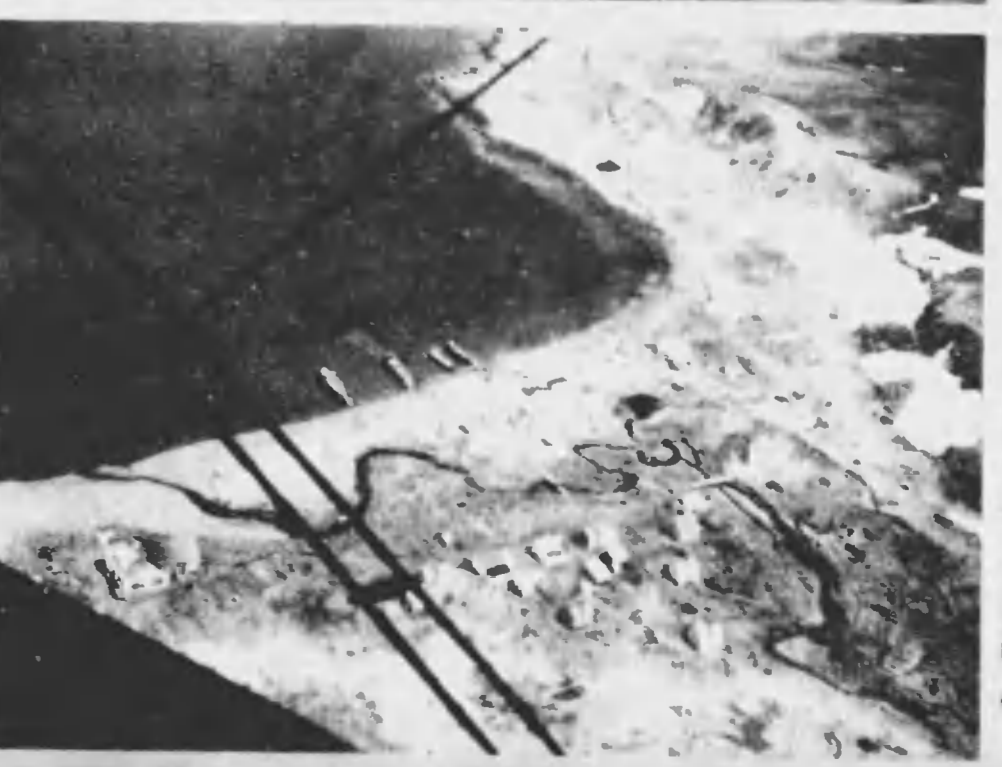
建設戦線



大東亞戦争の成果は、この廣いくく占領地區の建設を生ずか殺すかにかゝつてゐる。今は、途上にある復興を完成させれば、將來は大したものになるが、今は「南の資源は戦争の資材」にあてなければ



線戦のこい寒、お



島ツッア

日頃新聞記者小林一樹

帝國が米英撃滅のために起ち上つてから七ヶ月が過ぎた。この僅かの間にわが作戦地域は、北はアリューシャン列島から南は東インド諸島一帯、西はインド洋から南阿にまで及んだ。暴徒に下なす汗を流す兵隊さんがあるかと思へば、防寒外套に身を包み焚火して暖をとつてゐる兵隊さんがある。實にわが戦線は廣い。しかもこの廣いわが戦線は徹壁不敗の固めである。内地はいま盛夏の訪れで蒸されるやうに暑い、こゝ

北の戦線アリューシャンは雪に埋れ骨を刺すやうな寒さである。私達はアリューシャン列島の西側に立つてゐる。白雪の山々、氷の海、そして、その下にかく凍りつてゐる。雪が下り、防寒外套に身を包み焚火して暖をとつてゐる兵隊さんがある。實にわが戦線は廣い。しかもこの廣いわが戦線は徹壁不敗の固めである。内地はいま盛夏の訪れで蒸されるやうに暑い、こゝ

雪山に散る

ペーリング海を噴風して水が氷上凍は歸つてきた。戦線前方には雪が積り、アツツ島のチチヤゴフ島が見える。

アツツ島チチヤゴフ島に面した高きところから見た風景。雪が積り、アツツ島のチチヤゴフ島が見える。

てしら散に沫飛を敵残

島南海



撮影 鈴木海軍報道班員

逃げる敵残兵を馬で追ふ勇
海軍報道班員

海南島は礦物資源の寶
庫であるとともに、南
方における重要な軍事基
地の一つである

占領以來島内の治安は
都合地においては全く確
立され、住民はわが方に
大いに協力してゐるが、
南方の山中や邊鄙な地
には未だ暴息に浴しえない
不逞分子がゐり、島内の
治安を亂してゐる

わが海軍陸戦隊は、大
東亞戰爭勃發以來海に陸
に舉る難々たる戦果と並
行して、平和な島、海南
島めざしてこれら不逞分
子の掃蕩を續けてゐる

沫をばね上げて馬上の陸戦
隊員は不逞分子の屯する部
落を急襲する

必中の砲口は火をばく
椰子林の一角に敵を追ひつ
め、白兵戦に移る





マニラの敵国人收容所

こんどの戦争では、各国とも敵国兵や敵国人の收容数が相當量にのぼつてゐる。捕虜のとりあつかひについては國際間に申し合せがあるが、在住敵国人の待遇については、いまだかつてかうした所がなく、各国ともこの處置についてそれ／＼頭を悩ましてゐるところだ。

これはマニラ市セント・トーマス大學に收容されてゐる米英その他敵国人三千數百人の日常生活である。彼等は許された區域

いふものであらう。しかしながらマニラの美しい大學に收容されてゐる米英人たちは、シネラネヴァグ山脈奥地のバラックに收容されてゐる邦人たちは、その心境を比べてみるべき。一は祖國の敗戦を自棄の笑ひに聞き流さざるを得ないのに反して、一は祖國の連戦連勝を風の便りに聞き知つて、喜びの萬歳を叫んでゐるであらうといふ大きな相違があるのだ。戦ひはすべからず勝たねばならないといふことは、敵国人收容所を訪ねても沁々と感じさせられる實感である。

在マニラ久宗、深尾兩特派員

敷地内のあちこちで野球や蹴球が盛んだ。どこかでわーっという歓聲があがつてゐる。

お父さんの顔をべつたりつけて、久しぶりに託児所の空気に馴染そのものだ。

許された範圍の自由を利用して、その日の生活を愉しむ彼等一流の生活の仕方。祖國の敗戦などさしたつての問題ではないらしい。



子供たちは別棟に收容されてゐて、幼稚園のやうな生活をしてゐる。また切つとせんたのあんまりは、「お母さんのご機嫌が悪い

食事時には配給所の前に一列行列の輪行だ。自國の敗戦が身に沁みるのもこんなときだ。

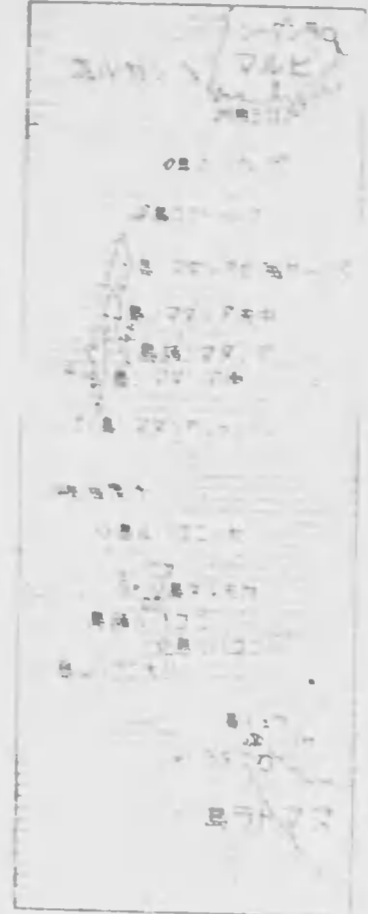




兵の持った椰子の賣のうまい汁をすって湯を
いやし、ふと勇士は内地の清水のうまさと思ふ



母艦を後に勇進小ニコバル島に陸戦隊は向ふ



領占血無ルバコニ



撮影 山崎海軍報道員

影は潮に落ちよとして空砲兵の
影射かに浮くニコバルの夕ぐれ
去るに、インド洋中アンダーマン群島に初
軍艦旗を掲し、海軍部隊は、ここにインド
洋の波瀾を蹴つて突如六月十三日の朝日、ニコ
バル群島中の要衝小ニコバル、ナンコウワ、カ
ニコバル島等に陸戦隊を降し、これを無抵抗
領、大日本帝國海軍占領の標柱を感涙と共に打
ち建てし。



ニコバル群島は十度海峡を境としてアンダーマン
諸島と連なつてをり、イギリスは一八六九年アン
マック人から領有し、この島は強
アンダーマン群島の支配下に置いて治めた。こ
の群島は大小の島々から成り、中でも群
島人口の三分の二、一万人の人口を有し、政略支
の要衝にあり、ニコバル島は此島の中心地とな
り、地味は、依りて、この島を占領すること、住民
は、領有地、村等、に從事し、計を為し、この島

住民たちから情報を聞く陸戦隊員



子とマレー人

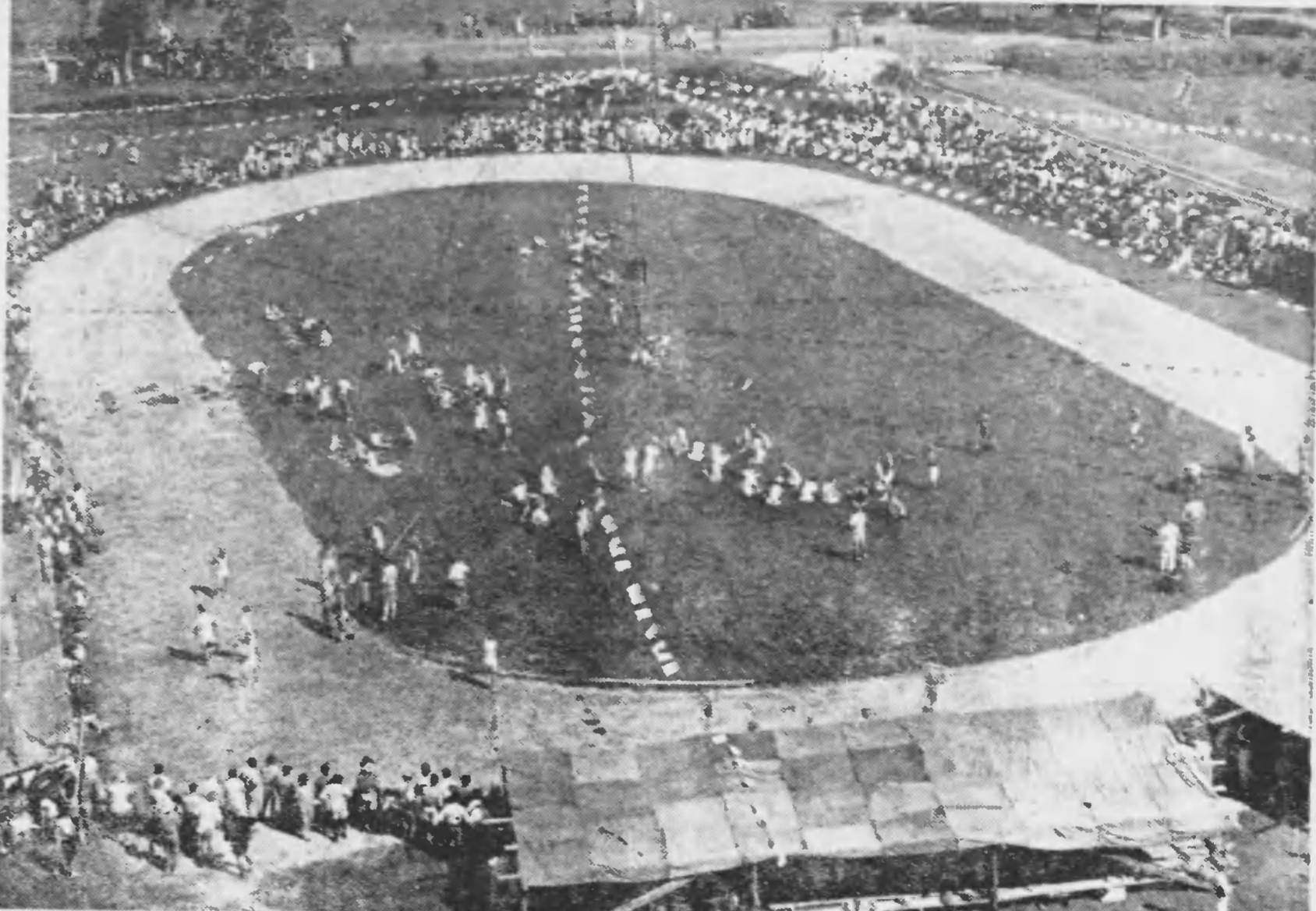
ジョホールバル陸軍病院慰問運動會



現はれいでたり丹下左膳、陽光にその白衣がまぶしい。マレー半島の南端、ジョホールバルの兵站病院から今日の珍しく和やかな楽しい兵隊さんの姿をお目にかかせよう。数ヶ月前のあの激しいかつた原野も今は夢のやうに遠く去り、原住民族の協力のもとに建設も治安も着々とすまられていますが、これは不幸病を得た身を病院内に養ふ勇士達の無聊を慰め、或はすでに快癒も近く、溢れる闘志を白衣についで汗肉の敷をかこつ勇士達のために催された運動會の様です。ごらん下さい、何か胸躍らした少年時代の運動會の思ひ出に輝々として賑れる純真な勇士の表情を、これではマリアもアングもともて驚りつけさうありませんね。

撮影 陸軍報道班

花環に飾られた英霊に原住民族も涙入り一節興に一致
蜘蛛手にはつた日章旗のため、何となくいざわめきに濡きたつて白衣選手の
故郷の夏祭りが椰子の木しげる南方の天地に再現される、神輿も神官も本格的だ



胡瓜

昭南の生の胡瓜をかじつたら涙が出て止まらなかつた。ふるさとの味が長にならうとは約僅かな胡瓜の味。胡瓜をききと母の姿が浮いてきた。

陸軍上等兵 三浦和美

上陸の印象

ジャコパも切れよと浪の荒れ狂い、激浪に噴きまわされ断られたり、襲へ来る浪より投げつけられ、む黒く眠る敵地、前には迫り来る激浪を膝にこらへて銃を撃つしどきあけて飛出す兵隊、砂に伏せ敵を探りて眼怒る、砂に伏せ見上ぐる椰子の葉音、敵の地を足下に踏みて言ひなし。

陸軍二等兵 戸松元凱

雨の歩哨線

何處で吹のか笛の音が、椰子の葉風と共に鳴る。遠い故郷が憶にれて、遠くとも遠くも想出が、響る歩哨の胸をつく。空を仰げば雲もなく、元氣を征げよと囁きされ、故郷を發つ日あの時の、懐かし母の面影が、響る歩哨の胸をつく。波の彼方に海は、空の光の光の帯、遠い故郷の夏の夜が、しみみ、身にしみ南方を響る歩哨の胸をつく。南十字の星の下、祖國の使節、先きに、きらめく星と諸共に、敵空にらみ立つ歩哨、任務は大きく重なり。

大東亞戦争日誌

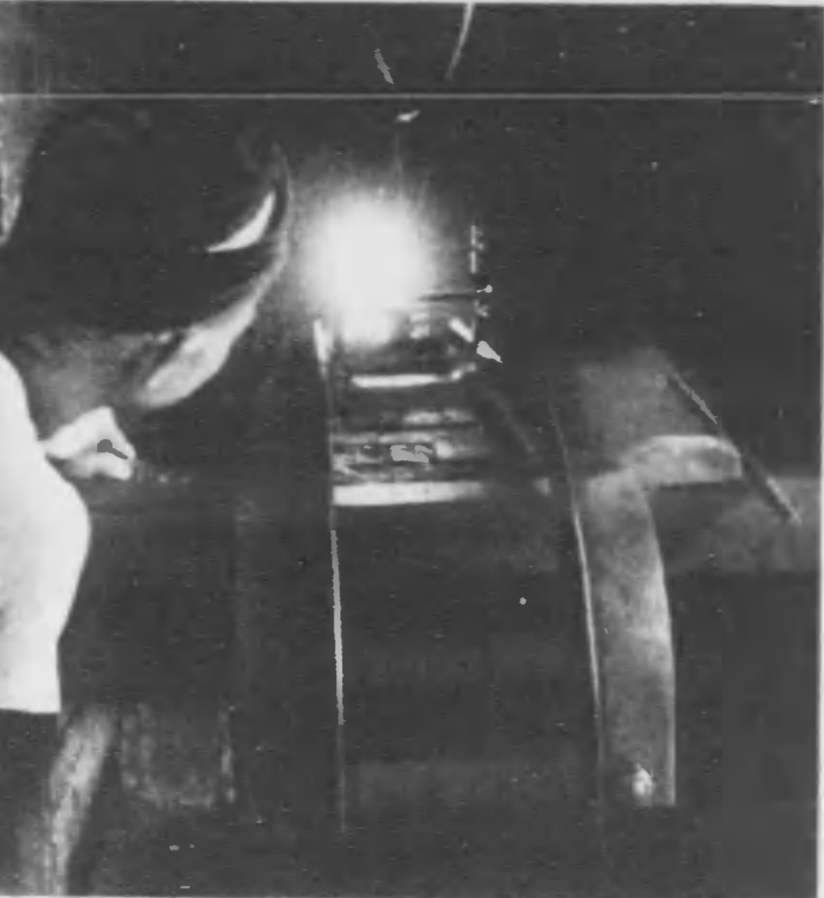
六日 ●支那方面陸軍の支那軍動員以降五箇年(六月中旬まで)における総合戦果ならびに我が方の損害、左の如く發表せらる。

総合戦果 (一)敵の遺棄死傷者約二百三十三万八千、(二)擧沈敵艦船、巡洋艦七隻、驅逐艦一隻、砲艦十一隻、その他約百三十隻、(三)擧沈敵飛行機約二千八百機、(四)主要なる擧獲品、各種火砲五千門、重砲機銃二万四千二百挺、小銃大士方三千四百挺、自動車(戦車、裝甲車を含む)三千輛、機銃船約千七百六十艘、(五)擧獲分米穀約七千五百萬石、(六)我が方の損害 (一)戦死十一万一千百一十一名(本年五月以降の戦死者を含む)、(二)喪失飛行機二百四十機。

七日 ●マラ方面陸軍の五月末日までに収めたる総合戦果 (一)遺棄死傷者約二万四千六百九十一名、(二)擧沈敵艦船二隻、(三)擧沈敵飛行機約二百八十八機、(四)擧獲品、火砲四百二十門、第一期三百三十九、第二期二百八十八、(五)鉄線一万一千四百四十八挺、(六)第一期四千七百四十八、第二期六千五百、砲彈一万四千八百五十六、第一期千六百八十、第二期一万三千七百七十六、鉄線三百四十六万二千三百一十、第一期三百五十九万五千九百九十九、第二期三百三十一、(四)車輛八千二百五十四輛、第一期三千三十六、第二期六千九百二十八、(五)わが方の損害、戦死二千二百八十九名、(第一期四百三十八、第二期八百五十一)、戦傷三千五百五十六名、(第一期八百二十六、第二期二千三百三十一)、(註)第一期は十二月八日より三月十日まで、第二期は三月十一日より五月三十一日まで。



不純物を除き去った錫石は、錫石大反舟道に入れられて膏油で加熱される



不純物を除き去った錫石は、錫石大反舟道に入れられて膏油で加熱される



改裝されて錫石を運搬するかつこの運搬用ケーブルカー



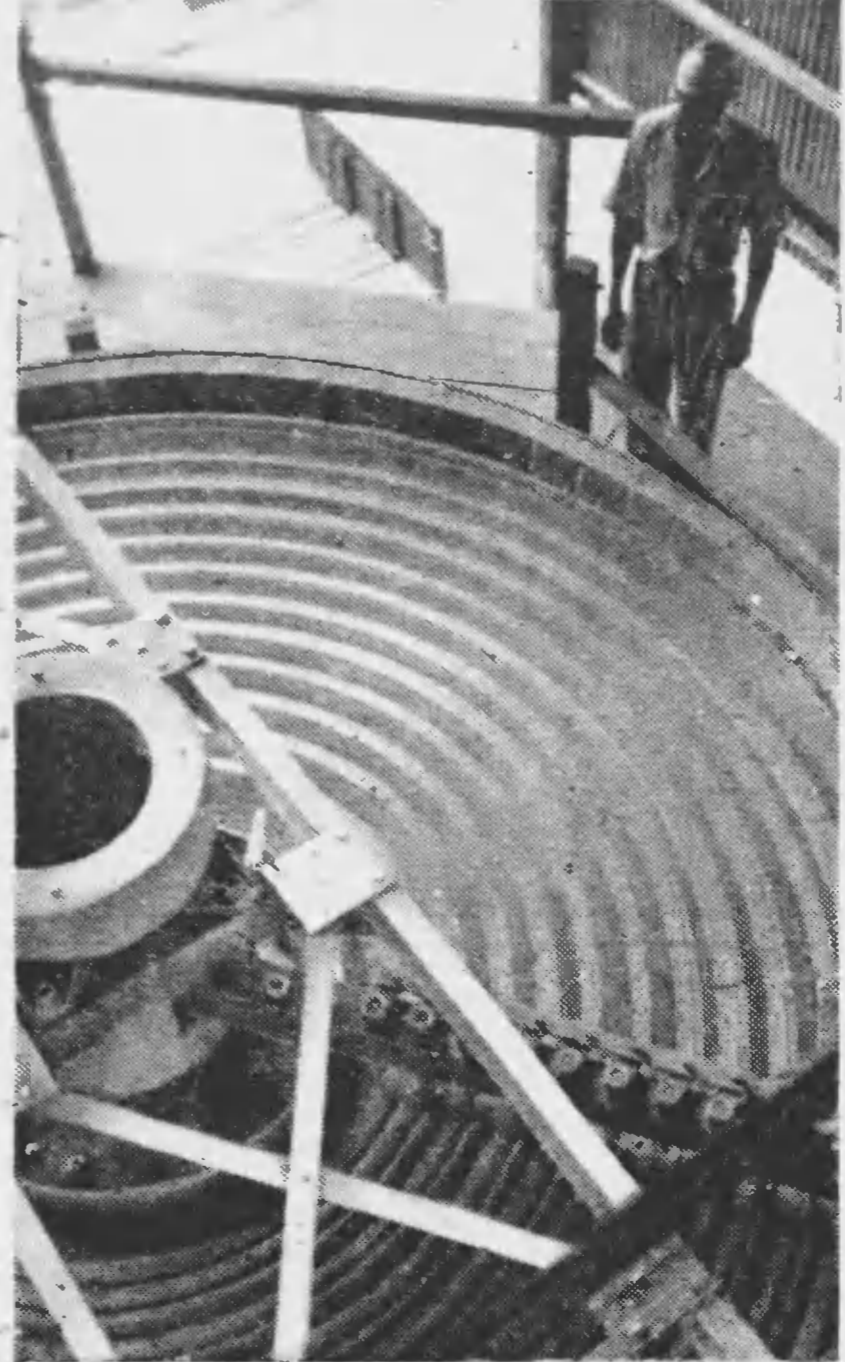
釜内に蒸気を吹込んで精製錫ができる、これを型に絞めて凍結させる



ふとを終った錫石の袋はトロッコに積み込まれ倉庫から製煉工場へ運ばれる



大日本成南錫製煉所



ここで錫石は不純物を除くために大段式の精製爐にかけられる



採掘した錫石を分析して品位の含有量を決定する製煉所の分析室

る誇に界世
のンナペ
所煉製錫

マレー半島の河口、マラッカ海峡に
臨んだペナンは面積わずか二百七十八
平方キロ(約淡路島の半分)の小さい島
だが、錫の産額では世界的に秀で、

り、正にペナンは錫の島だともいへ
る。實際、大東亞戦争勃発直前までペ
ナンの錫工場は米英兩國の最も大きな
錫の供給地として世界所産の約四割
を生産してゐたのである。

いま、敵の手からわが方に接収され
たこの錫工場は大東亞建設の重要な一
翼を担つて腹一杯に詰め込んだ錫石
の製煉に徹夜の作業を續けてゐる。こ
とにこの建設職に美しい花を咲かせ
てゐるのはわが派遣技術の偉れと技術
にマレー人が心から敬意を示してゐるこ
とであつて、製煉工場の轟音の中に、
錫の延板の山を搬送する登陸トンカ
ン(我輩)の中にわが派遣員と原住民と
のほろあまじい協力風景をみることは、
建設職の將來を暗示するものとして
誠にたのしいものがある。

撮影 山陽海軍報道班員



貯蓄戰でも億

米英打倒

長期貯蓄に

生命保險
徵兵保險

國民貯蓄獎勵局

生命保險統制會

内閣印刷局印刷發行

社団法人 4494 1000 1000